

三春

特集

—あんたが町長!?

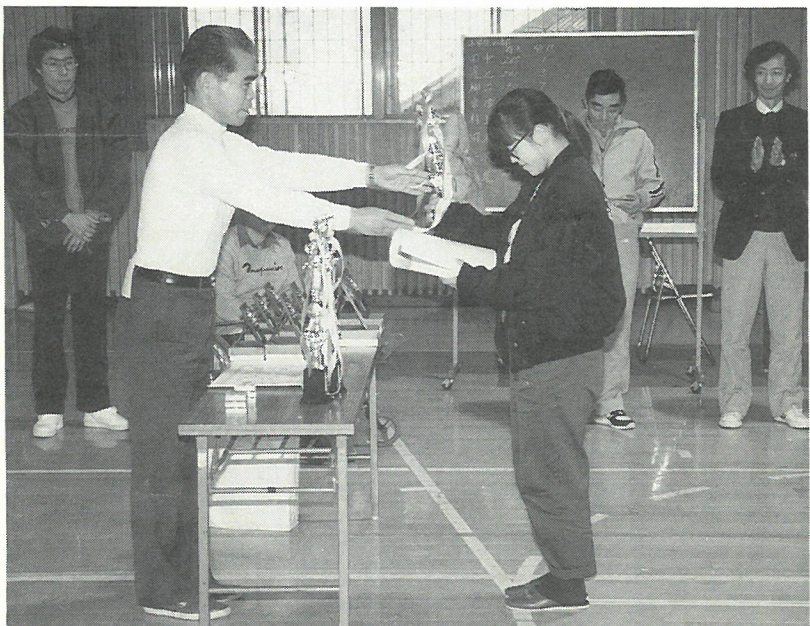
わが街

■コミュニティだより

■編集 三春まちづくり協会調査広報特別委員会

■発行 三春まちづくり協会

Vol.13



左が会長の五十嵐さん 昨年末の大会の表彰式から



みなさんアーチェリー（洋弓）をご存知でしょうか？
平成七年に福島県に於いて第五十回国民体育大会が開催されます。三春町では町営運動場に於いてアーチェリー競技が行われることが既に決定しているところでもあります。そこで、今回は三春町アーチェリー協会とアーチェリー競技についてご紹介いたします。

平成元年六月八日に、アーチェリー愛好者の組織化を図りアーチェリーの普及拡大・健康増進・体位の向上と精神の修練を図り、社会体育の振興に寄与することを目的とした三春町アーチェリー協会が発足しました。五十嵐和男さんを会長として小学生から六十歳代の方までの男女四十四名の会員の方がおります。練習は毎週

火曜日の午後六時から九時まで、毎週土曜日の午後一時から五時まで南町の元の合同庁舎の建物の中で行っています。

会員の方に入会した理由はと尋ねましたところ「三春町に於いて国体のアーチェリー競技が開催されるので手伝いをしたいと思ってました。アーチェリーとはどんなものかよく知らない

多かったので自分でもやってみようと思い入会しました。経験者は少ないのですが、練習の甲斐あって皆さん上手になってます。若い人も多いので、三春町から国体に出場できる選手が出てほしいと思っています。」と話して下さいました。また、アーチェリーについては、「年齢に関係なく出来るし、集中力が身につく、姿勢も

あなたも三春の華となれ!

目指すは国体・気分はロビンフッド!

良くなります。ただ、初めのうちは肘のあたりに弦があたりはれたりもしました。同じく射っているつもりでも微妙な違いで同じく矢が飛ばないので悩んでしまいましたが、そこがまた、おもしろいところですね。」とも話して下さいました。

また、田村高等学校が昨年、福島県より福島国体のためのアーチェリーの強化指定校に指定されており、同校のアーチェリー同好会の皆さんも国体出場を目指して練習に励んでいるようです。

どなたでも入会
できます

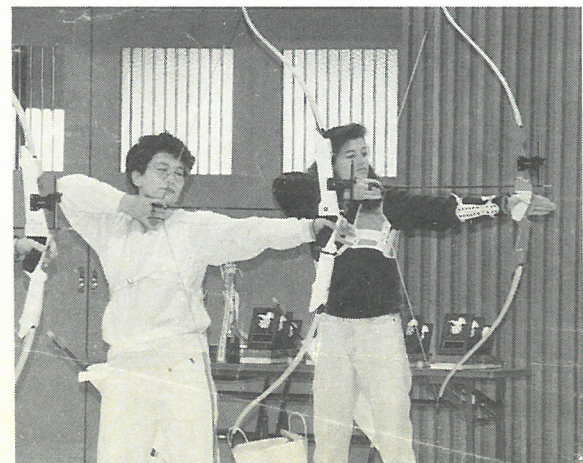
三春町アーチェリー協会に入会したい方は、会長の五十嵐和男さん、南町五五一（六二一四九二七）か事務局長の佐久間孝夫さん、三春町公民館（六二一三八三七）のどちらかに、入会申込書を提出して頂くと共に入会金千円、年会費三千円を納めて頂ければどなたでも入会することが出来ます。どのようなものか見学したい方は、練習日に行けば実際に矢を射させてくれ

アーチェリーの競技

アーチェリー競技には二種類あります。ターゲットアーチェリーとフィールドアーチェリーです。ターゲットについてはアウトドアとインドアがあります。技や正確さを競うターゲットアーチェリーはオリンピックや国体等において行われる競技で、定められた距離から射って合計点で勝負を決めます。三春町で行われるのもこの競技で、三〇メートルと五〇メートルの距離からそれぞれ三六射ずつ合計七十二射で行われます。ターゲット（的）の大きさは直径八〇センチ

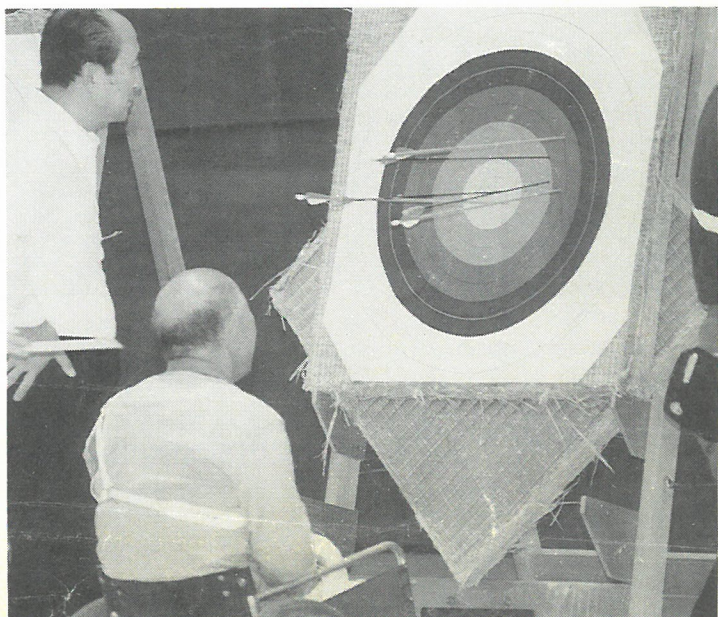
るそうですので、お気軽に出かけてみてはいかがでしょうか。

もう一つのフィールドアーチェリーは自然の中に設置されたターゲットを四人一組で一つ一つ射つ競技で、山あり谷ありの変化に富んだコースを歩くので足腰の運動にもなりますし、景色も変わるので楽しく回れるかもしれません。両方の競技ともターゲットが見えない限り雨、風にとられずに競技が行われます。



ポイントであり精神的資質が要求されるものですが、また、年齢、性格、体力等に左右されることが少ない特性を持っており、練習をすれば比較的短い時間でもしろいほど上達するものです。

皆さんも自分で射った矢が的中したときの快感を一度経験してみませんか。



さあ、何点かな

新春特集

あんたが町長!

「三春がこのような街になれば」

あけましておめでとうございます。

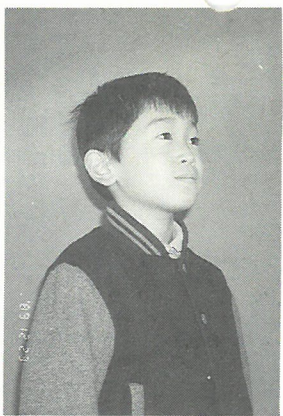
まちづくり協会の調査広報特別委員会のメンバーが、独断で選んだ紙上町長に、年頭の所信を述べていただきました。

ぼくが町長だったら

遠藤 貴宏

熊耳

ぼくが町長だったらと考えてみました。まず、歩道をレンガづくりします。そして、歩道の一部に、ほ



町にできたらすばらしいと思います。また、日よう日の、ある時間を決めて、自動車をとめて、子供たちが道路でも、自由に遊べるようにもします。(三春小四年生)

こどもの教育について

佐々木

由美子

北町

高齢者や子供、そして障害のある方にとっても、住



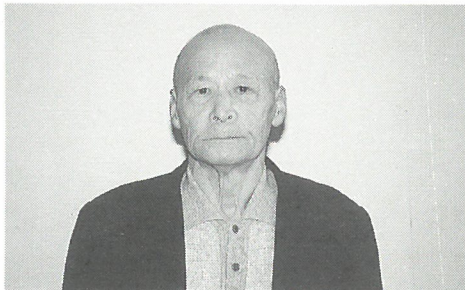
害のある方にとっても、住

と、タイアップして、児童文庫の振興をはかり、また私設の文庫の援助も、積極的に、子供たちが本に親しみやすい環境を整えます。

町の中心部に、図書館、町民センター、福祉センター等を隣接して建て、町内の各地区と結んで、低料金の、巡回バスを走らせます。福祉バスは、無料とします。福祉センターの中には、老人の保護や、デイサービス、学習施設等のほかに、広い室内遊戯場を作り、遊具やおもちゃをたくさん置き、障害のある子もいない子も、一緒に遊べるような場所にします。おもちゃの貸し出しをする、おもちゃ図書館も設置します。屋外には遊園地を作り、町民センターや図書館と合わせて、子供から、お年寄りまで、家族ぐるみで楽しめる場とします。

保育所の職員数を増やし、○才児保育や、障害児保育までに、保育の範囲を広げます。学校においても、進度の遅い子への指導を、充実させ、ハンディのある子の受け入れも進めます。三春に住むすべての子供達が、町内の学校、あるいは施設で、適切な指導が受けられるようにします。これらのことは、ハンディのある子供、いろいろな生活体験のできる場とします。図書館

で欲しいと思います。以上、たいへん欲張って書いてみました。



老人の福祉について 思うこと

服部 庄三

北町

わが三春町においても、高齢化が進み、老人の人々が多くなってきました。老人の福祉対策として、施設の充実には種々検討が行われてきましたことは、私が言うまでもないことです。しかし、老人の福祉の問題は幅が広く、奥行きが深いものではないかと思っています。それで、私なりの考えを述べて、皆様方のご批判とご指導を賜りたいと思います。あえて拙文を書いてみました。わが三春町に現在、敬老人園、特別養護老人ホーム「あぶくま荘」があります。が、その施設の利用は、一部の限られた人たちです。多くの老人の皆さんは、自宅で暮らしてあります。家族の多い農家の人たちは、生涯現役で働いている人が多く、また身体が悪い方は寝たきりになり、このような方は、旧町に比較します

と多いと聞いております。旧町の方ではどうでしょうか。親と息子、孫と同居して暮らしておられる人は恵まれている家庭で、数は少ないようです。独り暮らし、または、夫婦の二人暮らしの老人家庭が多いようで、寝たきりの方は、施設や病院に入院しておられるようです。

一人や二人暮らし、または寝たきり老人の対策としては、町においては、在宅サービスに重点を注ぎ、デイサービスとか、ショートステイとか、またホームヘルパーの増員を計画されておるようです。それはそれなりに大切なことであり歓迎すべきことだと思います。

しかし、老人の大部分の皆さんは、ひっそりと暮らし、ひっそりと暮らしてあります。楽しみとして、老人クラブに入り、ゲートボールに夢中になっている人。三春町においては他市町村に先がけ、生きがいセンターを設置しました。その施設で、手芸、園芸等を勉強している人。明徳大学で勉強している人。また、お孫さんをお守されている人等、多種多様な生活をされております。

それでは生活経済基盤の方はどうか、生活に恵まれている人、恵まれていない人、それから年金の方はどうか、国民年金、厚生年金等がありますが、大部分の人は、なにかの年金を受けられていないと思います。

新聞、テレビ情報等によれば、将来の年金の在り方については、国行は、是正に向けて検討されていると

聞いております。一日でも早く解決に向け進めることを要望したい。このことは一番重要でないかと思

また、それと同様に、健康についての指導をお願いしたい。医学の知識と勉強、食事の問題、適切な老人にふさわしい運動、ボケ防止方法、独り暮らしへの思いやりのポケットベルの携帯とか。年間四、五回位の講習会とふれあい懇談会等に、老人の人々は心から希望されているのではないで

また、場所も地域別とか検討し、アンケートなどを取り、希望を取りまとめ実施されたい。また老人の健康のためにそして健康な老人の運動会、寒いときの運動不足を解消するため、屋内ゲートボール施設を、私が町長なら、さっそく実施してみたい。

望まれる モデルハウス

郡司

大

いつか私たちも老父母の様な生活になるかもしれないよね……と、知人のもらった言葉に高齢化社会の現状にあった住みよい住宅とは……と考えさせられました。



知人の母親が病院から帰ってきたときは、その喜びに満ちた様子に思わず涙ぐむほどだったとのこと。これからの日々を安らぎのある雰囲気にしてあげたいと心がけましたが、足は弱り、ほとんどベッドの上にいる状態でした。少し落ち着いてきたとき、外を眺めたいとの声に、車椅子を利用し、はとんど銀行を通し借りることにしました。日に一回か二回その日の気分に合わせて車椅子で廊下まで出て行き、自然に接する機会をつくってあげ、お茶を飲みながら会話をし、庭の草木を見たり、雲の動きを目で追ったり、たまに鳥の姿に接することができ、お互いに楽しい時間がもてたようです。でも家の構造が車椅子を動かすのには部屋がちよっと狭かったり、段差があったりで意外に大変だったとのこと、でも車椅子が生活の中に利用されたことはアイデアですね。これから益々増えると思われる老人、障害者の在宅医療に目を向けなければならぬと思います。この頃、改築とか改造が増えていくようですが、台所、浴室、トイレが多いと報道されております。浴室は改良すれば、老人や障害のある方を一緒に入れる介添の方は、労力や疲れは大分違うようですので、改造の余地は充分あると思われ

いを迎えることを頭においての設計で、モデルになるような家ができたらと夢のようなことを考えておりま

す。もし、理想的なモデルハウスができたらぜひ足を運んでみたいと期待しております。

すばらしい桜の里、三春、住んでみたい三春に、住まい住宅の実現を望んでおります。

地域医療について

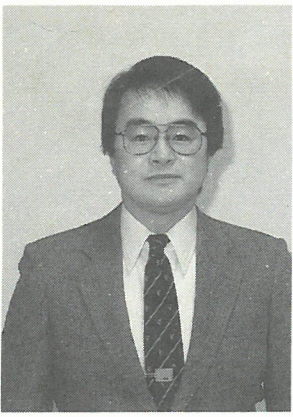
本田 修 大町

今回、医療を施す立場からみた「地域医療について」自分の専門である歯科医療を通して、地域医療の現状と今後の展望について書きたいと思います。

医療には、一般的治療を施す個人病院と、更に進んだ治療を行う基幹病院とがあります。この連携が大切です。ところが近年、患者さんの大病院指向が強くなってきたというのです。

この原因は、最新の医療を受けたい、それには大病院の方が設備が整っていると考えるからと思われます。

先日、友達が、「大病院の歯科に行ったが、学生みたいな先生にしかみてもえなかった。」というの



が、治療や手術にも立ち会い、更には病院の各診療科から講師を招いて、全人的な視野から歯科と全身患者のつながりについて研修しあっております。

です。確かに大病院は、高度な専門医療を提供できるところですが、研究と教育の機関でもあるわけですから、飛び込みで行って教授クラスのトップの人にみてもらえることは、ほとんどないのです。第一線の医療機関というフィールドを通過して、教授宛ての紹介状を持ち、その予約をこちらで行って、初めて確実にそれらの医療を受けられるのです。そのようなパイプを持つことにより、我々はより前向きな医療ができ、大学側も特殊な疾患を能率よくみれ、患者さんも効率よくその恩恵を受けられるのです。

これまでの診療形態を更に押し進めた、(完全ではないが)オープンシステムを取り入れている所があります。いわき市立総合磐城共立病院の口腔外科です。地元開業医の有志たちとで、「地域医療カンファレンス」という研修グループをつくっております。私は、この会の設立当初から約十年間、月に一度の研修会に参加しております。この病院は、医療科目数一七、病床数一〇八二を有し、いわき三三万市民の医療の象徴として知られています。そして、その会のメンバーは、単なる紹介だけの連携ではなく、患者さんと病院に行き、見学という形ではあります

が、治療や手術にも立ち会い、更には病院の各診療科から講師を招いて、全人的な視野から歯科と全身患者のつながりについて研修しあっております。

子どもたちとちよつと立ち話

日下部 三枝 清水

ある晩、体育館で中学生とバレーボールをしていると一人の子が、「おとなの人とバレーやりますか」とぼそつとつぶやきました。そ



るのてしよう。家族、学校の学年学級のお友だち、同方部の友だち(同学年が多い)、部活や塾の仲間、先生、学校の先生など同じ目的のために知り合った人たちの集まりがほとんどのよう

うです。昔前は、その人たちに加えて、近所のおばさんたちの姿が朝に夕に見かけられ通学の時にもいろいろな仕事についている人たちが道ですれちがったり同方向へ歩いていたり。おそろくその間にはあいさつや会話もあったらうと考えられます。今は近所のおばさんもお仕事、通勤も車が多く子どもたちの生活領域の中から、別な生活体験をしている人たちの姿が消えてい

るのではないかと感じていたがありません。さまざま体験をしている人との出会いは、同じ土俵の上で相手の人と話し合え、気持ちや心の痛みをわか

地域医療の充実について

小林 俊雄 栄町

「ピーポー、ピーポー」救急車のサイレンが今朝も早くから聞こえてくる。「大丈夫だろうか」人ごとながら思わず無事を祈らざるをえない。

もし、三春に一分一秒を争う緊急事態に対してもすぐ対応できる、すべての機能を有した病院があったなら、失われなくともよい貴重な生命がどれほど助かったであろうか。



昨年、県立三春病院の廃止や縮小を内容とする「地域保健医療計画」が出され、区長会や労働団体を中心に大きな反対運動が広がった。短期間のうちに、町民の九割にのぼる署名が集められ三春病院の廃止反対と、総合病院としての内容の充実をはかるよう、県に対し要請を行ってきた。しかし、県は「当面の現状維持」は約束したものの、充実に対しては何ら具体策をとっていないのが実体である。

先日、NHKの北極圏スペシャルで、零下何十度という厳しい自然環境の中で働く人々の生活が放映されていた。人口数千人のソ連の小さな村の保育園が紹介

されていたが、広々としたスペースに昼寝用の清潔で暖かそうなベッドが何十台も並び、人工太陽のもとでパンツ一つになって自由に遊び回る子供たちの映像だった。

聞くところによると、ソ連では三才以下の園児をかかえる保育園には必ず医者を一名以上常時配置し、子供たちの健康や成長に責任を持たなければならぬというところが、法律で義務づけられているという。

また、どんな小さな村や町にも緊急事態に即応できる大きな病院があり、さらに工場や事業所ごとに専門の医師が配置され、働く人々の健康に管理や労働、保健環境づくりが国の責任で行われているという。もちろん「無料で」である。

町にすてきな図書館を

田部 敬子 小浜海道

町のみんなが、そこに行けば、本をはじめとして、いろいろな新しい知識、情報が得られ、生涯学習の場として、またコミュニケーションの場となるそんな図書館ができるといういなあ!



いくつかの図書館を視察したおり、私たちは「図書館を考える会」という自主サークルです。と言うと、そのような会のある三春がうらやましいと言われまし

た。

行政側だけで立派な図書館(建物)をつくったが、利用者が今一つという図書館や、県で一番の利用率を誇る図書館など、さまざまな図書館を見て思うのは、図書館とい

